

経営理念	<p>【保育目標】 自分大好き・友だち大好き・あかおかつ子 【経営目標】 保護者とつながり、子どもにとって最もふさわしい生活の場としての最善を尽くす保育計画を目指す。 《子ども像》 ○話を聴く、話す力が身についた子ども ○好きなあそびを見つけて集中してあそぶ子ども ○よりよい人間関係を作る力をもつ子ども ○五感を十分に使い、豊かな感性を身につけた子ども ○一人一人の子どもを大切にしている保育所 ○地域を理解し保護者とともに子育てをする保育所 ○保・小・中・高の連携を大切にしている保育所 ○子どもの生活日課が確立される保育所 《保育所像》 ○子どもとの信頼関係を大切にしている保育士 ○保護者とのよりよい関係を築く保育士 ○チームワークを大切にしている保育士</p>
------	---

中期経営目標	短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等	
		達成状況	評価	考察	評価		
保育・教育活動の充実	○一人一人の心が満たされ、意欲的に遊びや生活をするための保育者の援助と環境構成を行う。	① 多角的な子ども理解のもと、一人一人にふさわしい経験を促す。	○エッセンス-Qを用いて年間8回、延べ23名について研修を実施した。子どもの見方が広がり、一人一人への援助を考えられるようになってきた。学んだことを保育に取り入れ継続的にかかわっていくことで子どもからの発信が増えたり、子どもの好ましくない行動が減ったりするなど変容が見られた。	B	○乳児の主体性を育むために、子どもの要求を受け止め、遊びを通して育ちを促すことにも目を向ける必要がある。	B	○子ども理解を深めていくとともに乳児期からの主体性に目を向け、一人一人にふさわしい経験を促すための環境構成や保育者の役割について話し合い保育に反映させていく。
	② 防災や安全への関心を高める。	○保育者の真剣な表情に、しっかりと話を聞いて避難をしようとする子どもに育ち、0歳児であっても保育者の声掛けで泣きやめて避難する姿が見られるようになった。訓練の積み重ねにより、幼児は避難の仕方が身についている。また反省を共有することで職員も担任するクラス以外の様子や、役割についても意識が向くようになってきた。その他園内の環境の見直しも行った。	C	○評価は、真剣なほど自分に厳しくなるものである。子どもにも大人の真剣度が感覚的に伝わっており、園の取り組みは十分に評価できる。	A	○職員が主体的かつ臨機応変に行動できるよう抜き打ちや様々なパターンの訓練を行いながら、判断力や行動力を高める。また子ども自身にも身の回りのことは自分でできる力をつけていく。	
	③ 言葉を通して人と関わる楽しさを感じる保育環境を構成する。	○保育者との信頼関係を基盤とし、ジェスチャーを交えながら自分の思いを表現したり、感動を周囲の友達や保育者に伝えようとする姿が見られるようになった。子どもの思いの読み取りが難しく、課題が残った。	B	○かつてより語彙の少なさが地域の課題であったことを踏まえて、子どもを育てていくとともに家庭への啓発も行うことをしていってほしい。	B	○保育者自身が感性を磨き、豊かな言葉をもつことや子どもの仕草や表情、発達を丁寧に見え子ども理解に努める。また子どもの育ちや行動の意味について保育者自身が視点を持ち、保護者にわかりやすく伝えられるようにする。	
職員の育成・資質向上や運営	○職員が互いの良さを認め合い、協働して保育を遂行する職場環境を作る。	① 互いに認め合う職員関係の中、一人一人が自己発揮できる関係づくりに努める。	○それぞれの役割を通して協力し合う職員関係が築かれつつある。雰囲気も良くなりコミュニケーションの量も増えてきた。そういったことが避難訓練にも活かされていた。 ○関わる職員に偏りがあったり、遠慮や迷いから自分から進んで声をかけることをためらうことや、もっと主体的に自分ができることを見つけれられたかもしれないと振り返った職員もいた。	B	○一人一人に役割があり、認め合う関係を作っていくことが集団作りの基本である。異動があるため、関係づくりをしていくことは難しく一年の中でできることは行っていたと言える。	B	○一人一人が役割を担い自己発揮できる園務分掌や、日頃のコミュニケーションを大切にし互いに声をかけやすい関係づくりを心がけることで職員の主体性を育てていく。
	② わかる・おもしろいを追求した研修内容の工夫を図る。	○経験に応じて市や県の研修に参加をし、知識が広がったり、保育を見直したりすることができた。学びを取り入れたことで成果が見られ、職員自身が手ごたえを感じることができたが、取り入れることへの難しさを感じることもあった。 ○全職員対象の虐待研修を行った。他の職員との協議を通して具体的な保育の方法を考えることや新たな見解につながった。またどの職員も自分事として捉えることができた振り返っていた。	B	○例えば子どもの絵画であれば技術的な事だけでなく、乳児からのぬたぐりを体験することが個の感性を育てる。様々な遊びの経験の中で感性が育つような遊びの質についても考えていってほしい。	B	○研修で学んでことを活かせるよう園全体でフォローしていく体制づくりを行っていききたい。また保育士が管理した環境ではなく、子どもが主体的に関わり経験を重ねていくことができるような遊びについても研究を行っていく。	
地域に関わられた園づくり	○地域の関係機関と連携及び協力して、子育て、家庭支援の充実に努める。	① 保護者・地域・園がつながる保育所運営を実現する。	○クラス懇談や地域行事への参加等は実施でき、新たに地域と園がつながることとして避難訓練への呼びかけを行った。また赤岡保育所での経験年数が浅い職員が多いため、地域とつながる方法や、何が出来るかを考える機会をもち保育に反映させてきたが、感染症の流行により乳児は地域に向向くことが難しかった。 ○保護者会企画の保護者同士の交流は年間2回行った。ざっくばらんに育児について話ができて好評を得ていた。 ○保護者アンケートの「日頃の子育ての悩みや困ったことを相談したい時職員に相談できますか」の問いでは「できる」の返答が96%であった。	B	○園が思っている以上に、住民は地域に子どもの声があることに感謝している。保護者会の交流会もよかった。飲み会の文化がなくなり保護者同士をつなげていくことには工夫が必要である。	B	○地域に出向き、互いに親しみを感じられる活動を行うとともに、地域の思いや願いを聞くことに努める。 ○今後は参加したことがない家庭にどのように参加してもらうか、どうすれば参加してもらえかを保護者会と共に考えていきたい。
	② 家庭と共に基本的な生活習慣を身につけた子どもの育成に努める。	○啓発の仕方によっては、プレッシャーに感じる家庭もあるが、うちしらべでは、シールを貼りたいことが子どもの意欲につながったり、うちの形状に興味を持つようになったりという話も聞かれた。そういった子どもの姿が保護者の関心にもつながっていた。 ○関心は高まったものの、実際に排便について取り組んだ家庭は9家庭と少なかった。また排便を通して他の生活習慣の大切さについて家庭に働きかけることも不十分だった。	C	○結果は納得のいくものではなかったかもしれないが、園の取り組みとしてはしっかり行っている。楽しんで行える工夫もありよかった。家庭環境もあるので、なかなか難しかったのではない。	B	○生活リズムの大切さは感じつつ、生活を変えることに抵抗があるのではないかと。引き続き楽しく取り組んでもらえるような方法を考えていきたい。また、なぜ生活習慣やリズムが大切なのか、園の課題に沿って家庭にわかりやすく知らせる工夫や、個別の対応を丁寧に行っていく。	

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要